

第6次豊川市総合計画策定のための まちづくり市民ヒアリング 実施報告書



豊川市

平成26年10月

1 会議の概要

第6次豊川市総合計画の策定にあたって実施した第5次豊川市総合計画の施策に係る自己評価の内容を、各種団体の推薦や市民公募による委員に説明して、今後の方向性について意見を伺うまちづくり市民ヒアリングを下記のとおり開催しました。

- (1) 開催時期 平成26年7月22日(火)から平成26年8月21日(木)まで
 (2) 開催方法 34人の委員を、6つの分野にグループ分けして開催
 グループ構成 5人から7人
 (3) 回数 6つの分野ごとに3回ずつ開催(全18回)
 (4) 場所 豊川市役所

2 開催日程

分野	回	開催日	時間	場所	対象施策
政策1 安全・安心	1回目	7月25日(金)	午前9時30分～	本34会議室	交通安全対策の強化 防犯対策の強化
	2回目	8月 6日(水)	午前9時30分～	本22会議室	防災対策の推進 消防体制の充実 救急体制の充実
	3回目	8月21日(木)	午前9時30分～	本31会議室	地球環境の保全 ごみの減量化の推進 衛生環境の向上 排水対策の推進 水の安定供給
	1回目	7月30日(水)	午後2時00分～	本33会議室	健康づくりの推進 地域医療体制の充実 高齢者福祉の推進
	2回目	8月 6日(水)	午後2時00分～	本23会議室	子育て支援の推進 ひとり親家庭支援の推進
	3回目	8月12日(火)	午前9時30分～	本22会議室	障害者福祉の推進
政策3 建設・整備	1回目	7月28日(月)	午前9時30分～	本31会議室	住環境の整備 公共交通の利便性向上
	2回目	7月31日(木)	午前9時30分～	本34会議室	道路交通網の充実
	3回目	8月11日(月)	午後2時00分～	本22会議室	緑のまちづくりの推進
政策4 教育・文化	1回目	7月24日(木)	午前9時30分～	本34会議室	学校教育の推進
	2回目	8月11日(月)	午前9時30分～	本22会議室	スポーツの振興
	3回目	8月20日(水)	午前9時30分～	本31会議室	生涯学習の推進と文化の振興
政策5 産業・交流	1回目	7月22日(火)	午前9時30分～	本31会議室	農業の振興 国際化と国際交流の推進
	2回目	7月29日(火)	午前9時30分～	本33会議室	商業の振興 中心市街地の活性化 観光の振興
	3回目	8月 7日(木)	午後2時00分～	本23会議室	工業の振興 雇用の安定と勤労者福祉の充実
政策6 行政・協働	1回目	7月23日(水)	午前9時30分～	本33会議室	コミュニティ活動・市民活動の推進 男女共同参画社会の形成
	2回目	8月 7日(木)	午後2時00分～	本22会議室	行政サービスの向上 職員の育成と適正な人員配置 健全な財政運営の推進
	3回目	8月21日(木)	午後2時00分～	本31会議室	開かれた市政の推進 地域情報化の推進

3 開催概要

全18回の会議の開催概要は次ページ以降のとおりです。

委員の皆様からいただいたご意見は、今後進める第6次豊川市総合計画の基本構想や基本計画の原案作成の参考とさせていただきます。

【開催概要】

- 日 時：平成26年7月25日（水） 午前9時30分～11時30分
- 会 場：豊川市役所 本34会議室
- 対象施策：施策① 交通安全対策の強化
 施策② 防犯対策の強化
- 出席者：高橋智之（豊川市連区長会会長）、鈴木泰弘（豊川市交通安全指導隊隊長）、
 河合美恵子（豊川防災ボランティアコーディネーターの会）、中尾孜（市民公
 募）、高橋政直（市民公募）

【主な意見】

施策① 交通安全対策の強化

- ・交通児童遊園を改装して、高齢者も使えるように考えたかどうか。高齢者の自転車教室を開くための場所が26小学校区にない。地域の高齢者や子どもに安全意識を植え付けていかないと、事故は減らない。
- ・高齢者が夜間は自転車に乗らないように抑制する必要がある。
- ・救急車両が優先することを高校生は知らないようであり、高校生の教育も重要である。
- ・広報とよかわなどで、交通事故の多い場所を示して市民に周知徹底する必要がある。
- ・交通安全対策に一番大切なことは人であり、交通安全意識を高めるためには市民の参加・実践型教育が必要である。



施策② 防犯対策の強化

- ・防犯カメラの助成・設置の促進により、犯罪を抑止する必要がある。
- ・防犯カメラは費用が高いため、安い物やダミーカメラの設置、設置しているという表示などを付けることを検討する必要がある。
- ・防犯ボランティアは充実しているが、引続き支援する必要がある。
- ・防犯には地域の目が重要で、人の目がゆき届くモデル地区を作る方法もある。
- ・女性や子どもの安全のために、不審者情報などの情報提供がもっと必要である。
- ・豊川市にもっと人が来て発展するとよいが、安全・安心は最も大切と認識すべきである。
- ・空き家が増えていくことで治安悪化につながる恐れがある。
- ・町内会毎に「あいさつ」、「立ち話し」等、道端へ出て会話をし、不審者を近づけない対策が明日の安全・安心につながる。「社会の輪、人の和」が重要である。

【開催概要】

- 日 時：平成26年8月6日（水） 午前9時30分～11時30分
- 会 場：豊川市役所 本22会議室
- 対象施策：施策③ 防災対策の推進
 施策④ 消防体制の充実
 施策⑤ 救急体制の充実
- 出席者：高橋智之（豊川市連区長会会長）、鈴木泰弘（豊川市交通安全指導隊隊長）、
 河合美恵子（豊川防災ボランティアコーディネーターの会）、中尾孜（市民公
 募）、高橋政直（市民公募）

【主な意見】

施策③ 防災対策の推進

- ・災害時の避難路を確保するために、交通安全のヒヤリハットマップを作った時のように、防災避難経路のマップを市民が参加して作成することが重要である。
- ・縦割行政ではなく横断的に防災を捉えることが重要である。防災部局の体制充実も必要である。
- ・防災意識に地域間で差があり、意識が低い地域への働きかけが必要である。
- ・現在一部で実施している町内単位に捉われない連区や校区といった広い地域での防災活動をより一層推進していくべきである。
- ・設備の充実以上に「人」が重要である。
- ・中心となるリーダー育成や選出方法を既存の関連組織と連携することも必要である。



施策④ 消防体制の充実

- ・火災発生箇所のうちで火災報知器を設置していた件数の調査や、設置の啓発を今後も進める必要がある。
- ・地域の消防力を高めるために、企業との連携、女性が消防団に参加しやすくなる工夫など、時代に沿った効果的な消防体制の充実を図る必要がある。
- ・今後、空き家の増加により放火などの危険が想定され、その管理は地域の安全にとって課題となるため、調査の実施や対策の検討を進めるべきである。

施策⑤ 救急体制の充実

- ・独居の市民の緊急の通報について、福祉施策とも連携して充実する必要がある。
- ・救急車をタクシー代わりに利用しないように、市民に啓発を行うべきである。
- ・AEDの設置箇所を広げることと、今後も利用するための講習会をより一層積極的に開くべきである。

【開催概要】

- 日 時：平成26年8月21日（木） 午前9時30分～11時30分
- 会 場：豊川市役所 本31会議室
- 対象施策：施策⑥ 地球環境の保全
 施策⑦ ごみ減量化の推進
 施策⑧ 衛生環境の向上
 施策⑨ 排水対策の推進
 施策⑩ 水の安定供給
- 出席者：高橋智之（豊川市連区長会会長）、鈴木泰弘（豊川市交通安全指導隊隊長）、河合美恵子（豊川防災ボランティアコーディネーターの会）、中尾孜（市民公募）、高橋政直（市民公募）

【主な意見】**施策⑥ 地球環境の保全**

- ・森林面積が広いので、林道を舗装することよりも、管理を促すために延長を長くするように整備を推進すべきである。
- ・図書館や公共施設で冷暖房を効かせて、クールシェア、ウォームシェアを進めてPRを行う必要がある。
- ・防災面においても、必要な公共施設等には太陽光発電を設置し自家発電を確保すべきである。
- ・町の中に街路樹があると良いので、落葉の収集については市民の協力を得て行うようにして、街路樹を増やすべきである。

**施策⑦ ごみ減量化の推進、施策⑧ 衛生環境の向上**

- ・分別を徹底するためにごみステーションを5軒に1箇所など、きめ細かく設けることや、個別収集方式に切り替えることを検討してはどうか。
- ・町内会に入っていない人がごみを持ち込む場所を設けることや、町内会への加入促進によって分別を徹底する必要がある。
- ・ごみ出しマナーや分別の徹底のために、集積場のパトロールを強化し、ごみ分別の方法について、これからも市民にもっと周知する必要がある。
- ・小売店などが産業廃棄物として出すべきごみを一般廃棄物として集積場に持ち込む場合があるので、産廃の袋の色を変え、集積場に出せるよう検討する。

施策⑨ 排水対策の推進

- ・浸透枡の設置支援が、あまり進んでいない。
- ・川の水質保全が重要であり、家庭雑排水が川にそのまま流れているのか調査を行うべきである。

施策⑩ 水の安定供給

- ・水道については、地震対策のために耐震管への布設替えを推進すべきである。

【開催概要】

- 日 時：平成26年7月30日（水） 午後2時00分～4時00分
- 会 場：豊川市役所 本33会議室
- 対象施策：施策① 健康づくりの推進
 施策② 地域医療体制の充実
 施策④ 高齢者福祉の推進
- 出席者：山崎敏幸（豊川市社会福祉協議会総務課係長）、川上陽子（豊川市老人クラブ連合会副会長）、大高博嗣（豊川市障害者（児）団体連絡協議会理事）、伊奈克美（とよかわ子育てネット代表理事）、山田凌平（豊橋創造大学（学生））、野村公樹（市民公募）、鯉淵さやか（市民公募）

【主な意見】**施策① 健康づくりの推進**

- ・医療、保健、介護の連携をはじめ、市全体が縦割りではなく連携強化が必要である。
- ・健診の受診率を高めるために、医師会等との連携や今の時代に合わせたITなどを活用した情報発信が必要である。
- ・子宮頸がんの受診率向上ため、高校生を対象にしたPRをしてはどうか。
- ・豊川市はじまりの体操の学校への普及啓発やITを活用した普及を一層進めるべきである。

**施策② 地域医療体制の充実**

- ・バースセンターのPRなど、子どもを産み育てやすい環境をPRすべきである。
- ・市民病院と休日夜間診療所やかかりつけ医との役割分担など、どのような医療機関へ行けばよいかについての情報をきちんと市民へ知らせることが重要である。

施策④ 高齢者福祉の推進

- ・高齢者相談センターは地域に配慮した地区割にするとともに、相談があれば訪問して身近に対応することをきちんとPRすることが必要である。
- ・介護の事業を支える人材確保のために、介護職員を目指す人が介護施設の職員などの現場の声を聞くことができる機会を作ったらどうか。
- ・今後は高齢者が増え、財政的にも厳しくなるため、市民の責任としてやることもある。

【開催概要】

- 日 時：平成26年8月6日（水） 午後2時00分～4時00分
- 会 場：豊川市役所 本23会議室
- 対象施策：施策③ 子育て支援の推進
施策⑥ ひとり親家庭の支援
- 出席者：山崎敏幸（豊川市社会福祉協議会総務課係長）、川上陽子（豊川市老人クラブ連合会副会長）、大高博嗣（豊川市障害者（児）団体連絡協議会理事）、伊奈克美（とよかわ子育てネット代表理事）、山田凌平（豊橋創造大学（学生））、野村公樹（市民公募）、鯉淵さやか（市民公募）

【主な意見】**施策③ 子育ての推進**

- ・子どもを産むことができる病院が少ないので、医療機関と連携すべきである。
- ・親の代わりに子どもを見る事業としてヘルパー派遣事業がある。しかし、産前・産後の支援がないので、新生児の子育てを手伝ってくれるような家庭訪問型のしくみが必要である。
- ・多くのサービスが行われているが、産後1ヶ月の支援や時間外サービスがなくて困るなど、サービスの隙間があるので、その受け皿があると良い。
- ・子どもの医療費無料が当たり前になっているのが心配である。ニーズがある隙間のサービスへ財源を回すことも考える必要がある。
- ・老人クラブによる子育て支援サークルの動きもあり、地域の活動支援も必要である。

**施策⑥ ひとり親家庭の推進**

- ・子どもを預ける保育園の時間帯の配慮、病児保育を優先的に利用することができることなどが必要で、自立を促すためには、働くことができる体制づくりが必要である。
- ・生活保護と自立支援についての総合的な施策の見直しの検討が課題である。
- ・就労相談・支援を行った人の、その後の状況をフォローすることが望ましい。
- ・女性が働きに行く企業に対して、自立支援のための環境づくりを働きかけていく必要がある。
- ・母子家庭等日常生活支援事業によるヘルパー派遣は、利用実績が少ないので積極的にPRする必要がある。
- ・町内会への加入を促進し、ひとり親家庭支援などを地域で助け合うことが必要である。

【開催概要】

- 日 時：平成26年8月12日（火） 午前9時30分～11時35分
- 会 場：豊川市役所 本22会議室
- 検討施策：施策⑤ 障害者福祉の推進について
- 出席者：山崎敏幸（豊川市社会福祉協議会総務課係長）、川上陽子（豊川市老人クラブ連合会副会長）、大高博嗣（豊川市障害者（児）団体連絡協議会理事）、伊奈克美（とよかわ子育てネット代表理事）、山田凌平（豊橋創造大学（学生））、野村公樹（市民公募）、鯉淵さやか（市民公募）

【主な意見】**施策⑤ 障害者福祉の推進**

- ・豊川市全体の福祉のあり方について、関係者、関係課が連携を強化することが必要である。
- ・地域福祉のニーズが高まる中で、民生委員や地域福祉委員、保健師、ソーシャルワーカーなどの役割分担と連携が重要である。また、民生委員の負担を増やさない配慮も必要である。
- ・障害者も社会の一員であり、自立を支援する施策が重要で、障害者の社会参加や、受け入れ体制の充実が必要である。
- ・市民協働国際課がボランティアの担当となっているが、福祉課においてもボランティアとの連携が一層必要である。
- ・障害者向けのボランティアに市民が参加しやすいような工夫、市民へのPRが必要である。
- ・ボランティアや町内会についての情報が伝わっていない場合があるが、市民も情報を把握する姿勢が必要である。
- ・障害者の趣味、スポーツなどについても障害者福祉の施策として議論されるべきである。

**全体を通じて（人口減少への対応など）**

- ・婚活を行う場合には、女性の参加を得ることが必要である。豊川市の良さを活かしたレクリエーション的な企画など、相当に内容を工夫する必要がある。
- ・世代間の価値観やライフスタイルが異なっており、地域で共有できる感覚や考え方などを把握する必要がある。また、世代間の交流をうまく進める必要がある。

【開催概要】

- 日 時：平成26年7月28日（月） 午前9時30分～11時30分
- 会 場：豊川市役所 本31会議室
- 対象施策：施策① 住環境の整備
 施策② 公共交通の利便性向上
- 出席者：村上幸治（豊川商工会議所事務局次長兼業務課課長）、熊澤伸浩（一宮商工会経営指導員）、原なつみ（豊橋技術科学大学（学生））、陶山すみれ（市民公募）、伊藤民雄（市民公募）

【主な意見】**施策① 住環境の整備**

- ・豊川西部地区は、まちが綺麗になり良くなった。町民館の建設により、住民同士の交流が高まっている。地区内にゴミ集積所が整備できれば良かった。
- ・豊川西部土地区画整理事業が実施され、国府駅の東側では人口も増えている。それに伴って国府駅に隣接した東側の地区でも土地区画整理事業等を実施し、駅前に駐車場、送迎用スペースなどのロータリーの整備ができると良い。
- ・少子高齢化を考えると駅周辺を開発し、病院や店舗を計画的に配置するなど、歩いて暮らせるようにすべきである。
- ・豊川駅東地区にはマンションだけでなく、当初の計画通り、商業施設の立地も必要である。
- ・都市計画道路姫街道線のアンダーパス化の完成を計画的に実施すべきである。
- ・土地区画整理事業などで新しい道路ができると事故が増えているため、交通規制を強化すべきである。

**施策② 公共交通の利便性向上**

- ・コミュニティバスは民間の鉄道やバスとは違い、黒字化を意識するのではなく、社会基盤、弱者の生活基盤として公共がやっていく発想が必要であり、基幹路線にしても既存のバス路線と一緒に考えてはいけないのではないかと。短い区間を利用する人が多いため、100円均一にして利用者を増やしてはどうか。
- ・観光スポットも回る新たな路線などを作ってはどうか。
- ・コミュニティバスの便数を増やすのは困難であり、本数にあわせた利用方法を考えるべきである。
- ・バスの路線やダイヤがわかりにくい人が多く、なおかつそのような人はホームページを見られない人が多いと。紙媒体など、色々な方法で周知徹底と利用啓発を定期的に行うことが重要である。

【開催概要】

- 日 時：平成26年7月31日（木） 午前9時30分～11時30分
- 会 場：豊川市役所 本34会議室
- 対象施策：施策③ 道路交通網の充実
- 出席者：村上幸治（豊川商工会議所事務局次長兼業務課課長）、熊澤伸浩（一宮商工会経営指導員）、原なつみ（豊橋技術科学大学（学生））、陶山すみれ（市民公募）、伊藤民雄（市民公募）

【主な意見】

施策③ 道路交通網の充実

- 将来道路交通ビジョンでは少子高齢化などを踏まえ、生活の利便性を高める整備はやめて、経済発展に必要な道路、歩行者の安心・安全を重視した道路の整備に切り替えるなど、これまでとは違った考え方で道路整備を進めるべきである。
- 無理やりに1.5車線として右折レーンを設置するのは危険なため必要はない。
- 豊川豊橋線の横断の安全対策に向け、歩道橋の設置、中央分離帯、ガードレールの設置などを考えるべきである。
- 姫街道などの渋滞が多い場所について信号サイクルの変更が必要である。
- 佐奈川の堤防など、中学校や高校周辺で歩行者と共存できる自転車道の整備（歩行者と自転車を線や色で区分する）をすべきである。
- 今後は維持管理に手間と費用がかかるため、アダプトプログラムをもっと広める必要がある。そのためにやる気をもてる工夫として表彰制度などを実施してはどうか。
- 道路や河川の法面の草を、科学技術を導入して手間のかからないものにできないかを検討する必要がある。
- 道路の整備状況の満足度が横ばいになっていても及第点だと思う。



【開催概要】

- 日 時：平成26年8月11日（月） 午後2時00分～4時00分
- 会 場：豊川市役所 本22会議室
- 対象施策：施策④ 緑のまちづくりの推進
- 出席者：村上幸治（豊川商工会議所事務局次長兼業務課課長）、熊澤伸浩（一宮商工会経営指導員）、原なつみ（豊橋技術科学大学（学生））、陶山すみれ（市民公募）、伊藤民雄（市民公募）

【主な意見】**施策④ 緑のまちづくりの推進**

- ・市民の公園という意識づくりを行い、市民で公園の維持管理を行える仕組みづくりが必要である。
- ・草刈りや花植えなどを多くの市民に協力してもらえるように、回覧板だけでなく、現場に開催日時などを看板で掲示するなど、若い人にも知れ渡るようなPR方法を考えるべきである。
- ・苗木などの配布はいつも同じ人が貰っていると思われるため、防災訓練に参加した人に渡すなどの工夫が必要である。
- ・小さな公園を整備していくよりは、色々な物が揃った大きな公園の整備をしてはどうか。
- ・新しい公園の整備よりは今ある公園をリニューアルして、高齢者、若い人にも対応した公園にすべきである。
- ・親子で遊び方を学べるアスレチックやキャンプができる野外センターを整備すると多くの人が来るのではないか。
- ・佐奈川に自然観察などができる場を整備してはどうか。
- ・佐奈川の近くなど、多くの人を訪れ、ボランティアも沢山いるところに公園を整備すればボランティアの活動の輪が広がりやすいのではないか。
- ・住宅地内の公園は違法駐車が多いので、何か地元でできる対策が必要である。

**全体を通じて（人口減少への対応など）**

- ・少子高齢化の先、30年～50年先を見据えた将来の都市計画道路網などを考えることが必要である。
- ・今ある資源を有効に活用するなど、市の良さを伸ばしていくのが良い。
- ・車に乗れない人も生活しやすい道路、生活環境を整備していくべきである。

【開催概要】

- 日 時：平成26年7月24日（木） 午前9時30分～11時30分
- 会 場：豊川市役所 本34会議室
- 対象施策：施策① 学校教育の推進
- 出席者：長谷あや子（豊川文化協会副会長）、浅野博徳（豊川市体育協会理事長）、柴田功己（豊川市スポーツ推進委員会委員長）、渡辺光雄（豊川少年少女発明クラブ専任指導員）、宮下英津子（市民公募）、穴吹富貴子（市民公募）

【主な意見】**施策① 学校教育の推進**

- ・豊川市ならではの教育として、特区なども活用して独自の学校づくりを行い、他都市に比べていい教育が受けられる新しいビジョンを作るべきである。例えば、小中学校の連携、中学・高校との連携、公民館と中学校のハードも含めた一体化、地域・学校・PTAの協働による新たな学校づくりなど、豊川市で教育を受けたいと思えるようにすべきである。
- ・目標として快適な環境や施設整備など、夢、愛のあるものを掲げるべきである。
- ・目標は子どもが主体、子どもが主語となる表現にすべきである。
- ・教職員の忙しさの原因となっている事務処理について、本当に必要な書類なのか、帳票や決裁方法で改善できることはないのか、アウトソーシングなどができないかなどをもっと考えるべきである。
- ・いじめの問題も含め、先生がもっと子どもと向き合えるようにするため、忙しさを解消すること、研修の場を確保すること、先生同士のコミュニケーションの強化を行うこと、忙しいという学校の風土を変えることが必要である。
- ・今の子どもはコミュニケーション能力が不足していたり、発信の仕方がわからなかったりしているため、知識の詰め込みだけでなく、自分で考え、アピールして、コミュニケーションがとれるようなモチベーションが高められる教育が求められる。
- ・教職員向けの独自の研修を行うなど、教師の資質向上を図ることが必要である。
- ・地域に愛される学校づくりに向けて、学校の日々の事業はもっと地域の人が行きたくなる、交流したくなる事業を行うべきである。例えば高齢者等が子どもと一緒に給食を食べられるランチ会を開催してはどうか。
- ・高齢者は時間もあり、色々協力できる人も多いため、もっと行きたくなる内容、交流が深まるような取組みを行い、上手く協力してもらえるように、学校と地域が連携して取り組むべきである。また、行きたいと思えるような広報の工夫も必要である。
- ・部活動は子どもの教育、成長にとって重要であるため、子どもの意向を把握しながら外部の指導者やボランティアの協力を得て取り組むことが必要である。



【開催概要】

- 日 時：平成26年8月11日（月） 午前9時30分～11時30分
- 会 場：豊川市役所 本22会議室
- 対象施策：施策③ スポーツの振興
- 出席者：長谷あや子（豊川文化協会副会長）、浅野博徳（豊川市体育協会理事長）、柴田功己（豊川市スポーツ推進委員会委員長）、渡辺光雄（豊川少年少女発明クラブ専任指導員）、宮下英津子（市民公募）、穴吹富貴子（市民公募）

【主な意見】**施策③ スポーツの振興**

- ・将来目標の「多くの市民がスポーツに親しんでいます。」とあるが、「親しんでいます」よりも「楽しんでいきます」の方が良いと思う。
- ・基本目標で「あらゆる世代の人が豊かな心を育んでいます。」とあるが、市民意識調査では20歳以上を対象にしておき、もっと若い人の意見を聞いて考えるべきである。
- ・施策の内容が、スポーツの一部を捉えているだけで、学校や社会一般との関連が明確でない。
- ・若い人が活動できる施設を整備すべきである。
- ・少子化でスポーツ少年団の数が減っているが、子どもの頃からスポーツに親しめるように働きかけることが重要である。
- ・お金をかけなくても、いつでもどこでもやりたい時にスポーツができるようにすべきである。
- ・総合型地域スポーツクラブの推進に向けてもっと広報等でPRし、スポーツに消極的な人が健康づくりなどに一歩を踏み出せるようにすべきである。
- ・「するスポーツ」や「支えるスポーツ」だけでなく、「観るスポーツ」を重視してはどうかと思う。



【開催概要】

- 日 時：平成26年8月20日（水） 午前9時30分～11時30分
- 会 場：豊川市役所 本31会議室
- 対象施策：施策② 生涯学習の推進と文化の振興
- 出席者：長谷あや子（豊川文化協会副会長）、浅野博徳（豊川市体育協会理事長）、柴田功己（豊川市スポーツ推進委員会委員長）、渡辺光雄（豊川少年少女発明クラブ専任指導員）、宮下英津子（市民公募）、穴吹富貴子（市民公募）

【主な意見】**施策② 生涯学習の推進と文化の振興**

- ・文化的なまちは、人と人が互いに優しくいたわり合い、障害者なども共に生活できるまちである。弱いものを助ける心を広げられるような哲学を持った文化政策をすべきである。また、楽しむ要素、生きる力となる要素を文化政策に盛り込んでもらいたい。
- ・子どもや若い人が興味を持つ文化事業になるように、若い人の意見を聞いて取り組んでもらいたい。
- ・豊川の文化振興は進んでいるが、10年、20年先にも豊川がいいと思ってもらえるような方向性を明確にし、関係各課が連携し、今ある文化の活用や独自の歴史文化教育に取り組むなどして、文化の香るまちにすべきである。
- ・豊川の歴史を知らない人が多いが、地域にはたくさんのお寺やお宮などもあるため、親子で豊川の歴史が調べられるような取組みをすべきである。
- ・町並み保存、歴史的な景観保全などを行い、地域全体で地域の歴史文化に触れられるようにすべきである。
- ・自主グループが生涯学習活動を行っているが、これらの自主グループを支援するような立ち上げ支援や施設利用料の負担軽減などが必要である。
- ・子ども達が面白く、楽しく、頭も使いながらわくわくできるような環境づくりが必要である。
- ・子ども達、特に多感な時期の中学生、高校生が参加できる生涯学習講座を増やすべきである。
- ・中学2年生の図書購入費を助成するマイブックプロジェクトは、子どもの読書に対する興味を高めているため、事業継続していくべきである。



【開催概要】

- 日 時：平成26年7月22日（木） 午前9時30分～11時30分
- 会 場：豊川市役所 本31会議室
- 検討施策：施策① 農業の振興
 施策⑦ 国際化と国際交流の推進
- 出席者：佐原圭子（豊川商工会議所総務課課長）、鈴木悟（御津町商工会経営指導員）
 牧野延全（ひまわり農業協同組合総合企画部企画課課長）、藤井孝男（豊川市
 商店街連盟常任理事）、平田超人（市民公募）、伊藤民雄（市民公募）

【主な意見】**施策① 農業の振興**

- ・時代の流れの中で農業の問題を捉えて何をしていくべきか、重点を絞って考えていくべきである。
- ・大規模な農業を展開していくため、魅力ある農業や儲かる農業の体制を作るため、穂の国として田園環境を守っていくためにも農業の基盤整備、維持管理を積極的に行っていく必要がある。
- ・農業の重要度を上げるためには、市民が農業への関心を高めることができるように、市内の食が安全・安心であること、魅力ある農業であることなどをPRして、担い手の確保などにもつなげていく必要がある。
- ・住みやすいまちの中で農業を職業として選択できるようなビジョンを示すことも必要である。
- ・農業者の所得が安定するような支援事業として、豊川産の農産物が良いことをPRし、売れて儲かる農業とすること、農地の流動化を進めること、農商工連携を推進することが必要である。

**施策⑦ 国際化と国際交流の推進**

- ・人口が減少する中で、労働者不足になることが考えられ、外国人労働者が増加する可能性があることから、市民が外国人に対して関心を高める必要があり、市民がポルトガル語に対応できるようにポルトガル語養成講座で学んだり、外国人市民が何を求めているのか把握したりするなど、お互いに尊重し、対等に向き合えるような多文化共生のムードを高めていくことが必要である。
- ・国際交流を進めることで何を目標にしているのか、労働力の確保なのか、ボランティア等で活動する人を増やすのか、交流の先に何かがあるのかを明確にする必要がある。
- ・全市的に重点を絞って経営資源（予算、人）を集中させていくべきで、例えば、ポルトガル語を学べるように支援を強化させるなど、目に見える効果ができるようにしていくべきである。

【開催概要】

- 日 時：平成26年7月29日（火） 午前9時30分～11時30分
- 会 場：豊川市役所 本33会議室
- 対象施策：施策③ 商業の振興
 施策④ 中心市街地の活性化
 施策⑤ 観光の振興
- 出席者：佐原圭子（豊川商工会議所総務課長）、鈴木悟（御津町商工会経営指導員）
 牧野延全（ひまわり農業協同組合総合企画部企画課長）、藤井孝男（豊川市商店街連盟常任理事）、平田超人（市民公募）、伊藤民雄（市民公募）

【主な意見】**施策③ 商業の振興**

- ・若い人が創業できるように、創業支援に力を入れ、一日でも早く取組みを実施してほしい。
- ・大型店、通信販売、コンビニといった販売形態の多様化に対応できるように、商店街は自分で変わる努力が必要である。
- ・日用品などの買い物の利便性の満足度が目標に達していないが、大型店も商店街もあって住みやすく、周辺都市と比べると満足度は高いのではないかと。
- ・共同で色々な事業、イベントに取り組むことで活性化になるため、諏訪地区や国府地区にも商店街がまたつくられるとよいと思う。
- ・高齢者が住みやすいように身近な場所に商店を確保し、顔の見える店舗づくりが必要である。
- ・商店街ごとの地域性を踏まえ、それぞれの方向性を明確にして、商業振興を図る必要がある。

**施策④ 中心市街地の活性化**

- ・中心市街地は少し広い歩道のため歩いていくのは大変なため、諏訪地区、豊川地区、姫街道など、地区の特性をそれぞれ活かした戦略を考える必要がある。
- ・駅東区画整理地区内は地価が高いことが開発等のネックになって駐車場のままになっているため、地価を下げる対策が必要である。
- ・郊外的大型店舗などに打ち勝つような施策を実施していく必要がある。
- ・門前のいなり楽市は頑張っている。地元中学の吹奏楽の演奏があったり、地元の方が見守っていたりと、地域ぐるみの雰囲気がとても感動的であった。

施策⑤ 観光の振興

- ・外国人や修学旅行の誘客に向けた施策を考えるべきである。
- ・豊川いなり寿司とは別のブランドを考えるべきである。
- ・歴史的景観、産業観光など、住んでいる人が観光を楽しめるようにする必要がある。コミュニティバスも路線を少し改良して上手く活用すべきである。
- ・豊川に住む人を増やすため、間接観光として、周辺都市の観光資源もあわせてPRして海、山、川にもすぐに行ける住みよいまちとPRし、定住へとつなげる必要がある。
- ・広域的に観光を捉え、回遊性を高めていくべきである。
- ・豊川高校東のスクランブル交差点の信号の歩車分離は渋滞のもとになるので改善が必要である。

【開催概要】

- 日 時：平成26年8月7日（木） 午後2時～3時40分
- 会 場：豊川市役所 本23会議室
- 対象施策：施策② 工業の振興
施策⑥ 雇用の安定と勤労者福祉の充実
- 出席者：佐原圭子（豊川商工会議所総務課課長）、鈴木悟（御津町商工会経営指導員）
牧野延全（ひまわり農業協同組合総合企画部企画課課長）、藤井孝男（豊川市
商店街連盟常任理事）、平田超人（市民公募）、伊藤民雄（市民公募）

【主な意見】**施策② 工業の振興**

- ・市内の既存の中小事業所が事業を続けるのが厳しい状況であるため、既存の事業所が事業を続けるためのよい施策が必要である。
- ・企業進出補助金について、製造業だけではなく全業種を対象にすべきである。
- ・市内の製造業は、従業員が1人、2人の事業所が多いが、このような事業所の稼働率を上げ、活性化される必要がある。このような事業所への減税も必要である。
- ・厳しい経済状況の中で、豊川市の事業所数は大きな減少はなく、踏みとどまったことを評価したい。豊川市の立地の良さが評価されている。
- ・工場立地法の緑地面積を緩和しているが、環境面として緑地は確保した方がよい。
- ・これからは工業以外も含めた産業全体をどう育てるかを考えるべきである。工業団地に大きな面積を必要としない産業を入れるか、インター周辺や沿道も農振地域を解除して土地利用を変えるなど、構造的なことを考えるべきである。
- ・工業は頑張っているという印象があるが、御津の臨海部については心配である。臨海部の工業団地の防災に関しては市としても動きのあることをした方がよい。
- ・事業所数の数値は増やす目標ではないのに、基本目標は増えると書いており、整合が取れていない。目標の到達状況の進捗管理の方法について、きちんと考えた方がよい。

**施策⑥ 雇用の安定と勤労者福祉の充実**

- ・若年層の失業問題は深刻である。市が雇用確保を企業に求めないと、就職先がない、結婚できない悪循環に陥ってしまう。女性も働けるようにしていく必要がある。
- ・女性の仕事に関しては、保育園がないと働けない。育児休業を取得できても預けられないと働けない。女性の雇用のためには保育園の充実も重要である。
- ・市内の事業所でもジョブカード制度を活用しているが、即戦力が欲しい状況の中で育成している余裕はない。
- ・雇用したい人が集まらない。建設業の人手が特に足りない。若者を企業が教育しようとしても、やめてしまうケースも多い。最近はパートやアルバイトの方が時給の高いケースもあり、無理して働かなくてもよいと考える人も多い。
- ・社員と同じ仕事をしていてもパート扱いの人もある。事業所に入るタイミングの違いだけでパートは身分保障されていないという状況であり、支援が必要である。
- ・正規雇用、非正規雇用は豊川だけの問題ではないが、対応する施策は必要である。
- ・事業所や商業者の後継者が少なくなっている。
- ・老人介護により働けなくなる人も出ている。老人介護に対応しないと、働けなくなる人は今後も増えてくる。
- ・産業全体を活性化させて働く受け皿を増やす必要がある。

【開催概要】

- 日 時：平成26年7月23日（水） 午前9時30分～11時30分
- 会 場：豊川市役所 本33会議室
- 対象施策：施策① コミュニティ活動・市民活動の推進
施策② 男女共同参画社会の形成
- 出席者：白井利幸（穂の国青年会議所理事長）、神谷典江（穂の国まちづくりネットワーク代表理事）、宮地良和（豊川ビジョンリサーチ代表幹事）、富高将平（愛知大学）、上田求（市民公募）、坂井七子（市民公募）

【主な意見】**施策① コミュニティ活動・市民活動の推進**

- ・ボランティア市民活動センターが2拠点となり、活動分野も医療・福祉をはじめ多様な分野に広がった。
- ・ボランティア・市民活動の情報については、回覧、広報紙、ホームページでも発信しているが、若者に伝えるためには、SNSを活用するなどいろいろな情報ツールを工夫するべきである。
- ・ボランティアについて関心があれば、十分に情報を得る機会がある。関心の低い市民に、どう情報を発信していくのか、楽しく情報を得られる工夫や活動参加者の口コミも含めて情報発信を充実するべきである。
- ・ボランティアを立ち上げてから、継続することができるような支援のしくみがあるとよい。
- ・町内会の若年層の加入率が低く、また、役員のなり手が少ない。少子高齢化に伴う人口減少時代においてコミュニティ活動は非常に大切で、地域のコミュニティが元気になっていくまちづくりが必要である。
- ・町内会におけるユニークな活動について市民に紹介することや、町内会役員の負担を軽くする工夫などを継続するべきである。
- ・企業との協働の視点も重要である。

**施策② 男女共同参画社会の形成**

- ・男女共同参画社会の形成に向けて、意識の啓発、職場、男性に対する啓発活動を、今後もより効果的に実施するように工夫するべきである。
- ・子ども課などの子育て支援、保育サービス、学童保育などの施策についても、市民としては関心が高い。
- ・女性が働きやすい職場づくり、ワークシェアなどの企業への働きかけ、子育て支援なども大切である。
- ・情報誌「ゆい」の一層の活用や、市民活動団体との連携により、啓発活動を継続的に活性化させるべきである。
- ・男女共同参画は10年後にあたり前のことになるかもしれない。ただし、年長の経営者等では男女の固定的な役割意識がまだ根強い。
- ・今の時代、男女共同参画は当り前のことであり、タイトルの「形成」に違和感がある。「行政・協働」の分野が適当かどうかとも検討が必要ではないか。

【開催概要】

- 日 時：平成 26 年 8 月 7 日（木） 午後 2 時～4 時
- 会 場：豊川市役所 本 2 3 会議室
- 対象施策：施策⑤ 行政サービスの向上
 施策⑥ 職員の育成と適正な人員配置
 施策⑦ 健全な財政運営の推進
- 出席者：白井利幸（穂の国青年会議所理事長）、神谷典江（穂の国まちづくりネットワーク代表理事）、宮地良和（豊川ビジョンリサーチ代表幹事）、富高将平（愛知大学）、上田求（市民公募）、坂井七子（市民公募）

【主な意見】**施策⑤ 行政サービスの向上**

- ・各種証明書や旅券の発行業務をしているプリア窓口センターの場所を市民に分りやすくする必要がある。このため、プリア公共駐車場発券機の横に案内板を示すことや、外の看板に大きく示すこと、旅行会社などの協力をもっと得ることなどの工夫が必要である。
- ・市役所で行き先窓口を迷っている人をみかけたら、職員が積極的に声をかけるべきである。
- ・市民意識調査の重要度及び満足度を施策に利用するのであれば、その前提に、市民意識がより正確に反映される回答になるように設問等の設定に配慮すべきである。
- ・パソコンやスマートフォンからの納税を検討するにあたり、個人情報漏洩などがないように、システムの構築や職員の教育が必要である。

**施策⑥ 職員の育成と適正な人員配置**

- ・権限移譲や少子高齢化に伴う業務の増加を考慮しながら、業務ごとに必要となる職員の能力や人数について十分配慮して適正に進めるべきである。
- ・部署間で待遇に対する温度差があるため、全庁的にレベルアップが必要である。
- ・待遇の向上と合わせて、例えば小学生の絵や習字を展示するなどの市民から親しまれる環境や雰囲気をつくる取り組みをしてもよいのではないかと。
- ・市民の信頼に直結する分野であり、普段の対応が重要である。

施策⑦ 健全な財政運営の推進

- ・将来、財源不足を招かないように、自主財源の確保について市民みんなで考えるべきである。納税が社会貢献であるという意識をもってもらえるように、市民の意識改革も必要であるし、市役所も市民に対する業務の見える化や積極的な情報発信が必要である。
- ・中小企業が活性化するまちづくりなど、各分野の施策において税収の確保の方策や、交流人口を増やすことで豊川市にきた人にお金を使ってもらおう工夫が必要である。

【開催概要】

- 日 時：平成26年8月21日（水） 午後2時～4時
- 会 場：豊川市役所 本31会議室
- 対象施策：施策③ 開かれた市政の運営
施策④ 地域情報化の推進
- 出席者：白井利幸（穂の国青年会議所理事長）、神谷典江（穂の国まちづくりネットワーク代表理事）、宮地良和（豊川ビジョンリサーチ代表幹事）、富高将平（愛知大学）、上田 求（市民公募）、坂井七子（市民公募）

【主な意見】**施策③ 開かれた市政の運営**

- ・情報提供の方法について、紙媒体を使う高齢者向けと、若い人向けの方法を分けることがあっても良い。
- ・若者には動画も有効なツールである。
- ・市のツイッターなどで、市民等の活動を情報発信することで応援・PRして、「市民と一緒にやっている感」を大切にできるように工夫する必要がある。
- ・パブリックコメントの実施時期や、意見を出す期限について、市民が参加しやすい実施方法になるように工夫する必要がある。
- ・若者の意見を取り入れることは大切であり、パブリックコメントなどで意見を出すチャンスがあると若者にもPRすることが重要である。
- ・市のホームページは、愛知県内1位の評価を得たことについて、もっと市民にPRし知らせるべきである。
- ・地域防災行政無線による放送は緊急時に使うものと理解しているが、あまり使われていないため、地区ごとで、行事を地域の人にお知らせることなどに活用できるよう利用の幅を広げたらどうか。

**施策④ 地域情報化の推進**

- ・CATVの番組はおもしろくないので、地元企業を巻き込んだ内容にするなど、視聴者を増やす工夫が必要である。
- ・CATV加入率向上のためには、新築家庭を回るなどの営業努力が必要である。
- ・「みてみん！」の知名度が小中学生の保護者で低い。
- ・高齢者が増えており紙媒体による情報提供は重要であるが、パソコンなどになじんでももらうことも必要である。
- ・現在、開講しているパソコンICT研修講座をより多くの高齢者にも参加してもらえて、パソコンになじんでもらえるように、ボランティア・市民活動センターで毎日のように開かれているパソコンを使った活動や生涯学習と連携するなどの工夫をし普及を図る必要がある。パソコン教室は、市民と一緒にやろうという姿勢が必要である。

全体を通じて（人口減少への対応など）

- ・協働を進めるためには、行政のがんばりのみではなく、住民が元気にまちづくりに参加するようになるべきである。少子化でまちづくりを担っていく人が少なくなくなる中で、みんなでやっという気持ちを持つように促す必要がある。
- ・B1が開催できた市職員・市民がいるので、一緒になってそのエネルギーや行動力を人口減少対策にも向け、今後具体的に検討する必要がある。

4 委員名簿

(敬称略)

No.	区分	氏名	所属等	政策1 安全・安心	政策2 健康・福祉	政策3 建設・整備	政策4 教育・文化	政策5 産業・交流	政策6 行政・協働
1	市内の 公共的団体から 推薦された方 (20人)	高橋 智之	豊川市連区長会会長	○					
2		鈴木 泰弘	豊川市交通安全指導隊隊長	○					
3		河合 美恵子	豊川防災ボランティアコーディネーターの会	○					
4		山崎 敏幸	豊川市社会福祉協議会総務課係長		○				
5		川上 陽子	豊川市老人クラブ連合会副会長		○				
6		大高 博嗣	豊川市障害者(児)団体連絡協議会理事		○				
7		伊奈 克美	とよかわ子育てネット代表理事		○				
8		村上 幸治	豊川商工会議所事務局次長兼業務課課長			○			
9		佐原 圭子	豊川商工会議所総務課課長					○	
10		熊澤 伸浩	一宮商工会経営指導員			○			
11		鈴木 悟	御津町商工会経営指導員					○	
12		牧野 延全	ひまわり農業協同組合総合企画部企画課課長					○	
13		藤井 孝男	豊川市商店街連盟常任理事					○	
14		長谷 あや子	豊川文化協会副会長				○		
15		浅野 博徳	豊川市体育協会理事長				○		
16		柴田 功己	豊川市スポーツ推進委員会委員長				○		
17		渡辺 光雄	豊川少年少女発明クラブ専任指導員				○		
18		白井 利幸	穂の国青年会議所理事長						○
19		神谷 典江	穂の国まちづくりネットワーク代表理事						○
20		宮地 良和	豊川ビジョンリサーチ代表幹事						○
21	学生 (3人)	富高 将平	愛知大学						○
22		原 なつみ	豊橋技術科学大学			○			
23		山田 凌平	豊橋創造大学		○				
24	公募 (11人)	中尾 孜	市民	○					
25		高橋 政直	市民	○					
26		野村 公樹	市民		○				
27		鯉淵 さやか	市民		○				
28		陶山 すみれ	市民(審議会公募委員)			○			
29		伊藤 民雄	市民(審議会公募委員)			○		○	
30		宮下 英津子	市民				○		
31		穴吹 富貴子	市民				○		
32		平田 超人	市民					○	
33		上田 求	市民						○
34		坂井 七子	市民						○
(34人)				5人	7人	5人	6人	6人	6人

5 グループ写真

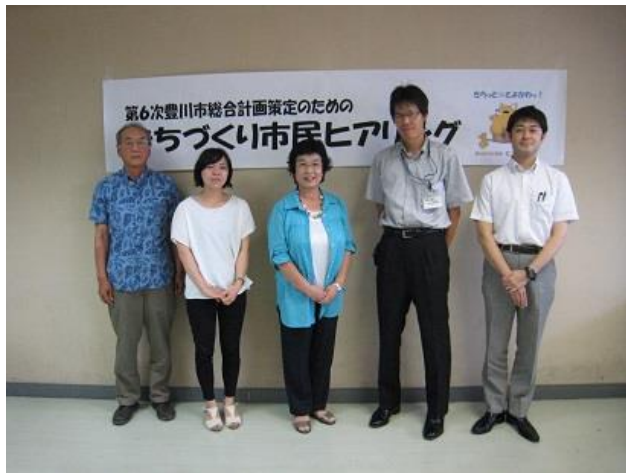
政策1【安全・安心】



政策2【健康・福祉】



政策3【建設・整備】



政策4【教育・文化】



政策5【産業・交流】



政策6【行政・協働】

